

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
特別支援教育 Special Needs Education		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	講義	選択	(栄養教諭必修)	栄養士フィールドの教職課程履修者のみ受講できる
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊 信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
ノーマライゼーションの理念の下、特別な支援を要する児童及び生徒のニーズは一般化してきている。特別な支援を要する児童及び生徒の気持ちを文字資料やVTRや障害の疑似体験を通して理解した上で、より良い生活を送れるように特別の支援を必要とする児童及び生徒の個別のニーズを理解し、支援する方法を具体的に学ぶ。更に、手話歌や点字絵本を紹介し、車椅子介助や盲人介助の仕方などを学ぶ。				
授業の目標				
①子どもの行動の見方を知り、気持ちを理解する視点を身につけるようにする。 ②子ども一人ひとりの気持ちに合わせて支援することができるようにする。 ③各種障害の疑似体験を通して、障害状況を理解することができるようにする。 ④各種障害の介助体験を通して、適切な介助をすることができるようにする。				
授業の方法				
文字資料やVTR映像を使って事例を紹介し、障害がある子の見方や対応の仕方の学習を具体的に進める。毎回、小レポートを提出。更に、各種障害の疑似体験・介助体験を行い、実際に手話や点字を使う。アクティブラーニングの技法を取り入れる。レポート課題を実施し、知識の定着を図る。				
学習の成果（学習成果）				
①人の行動を通して、その意味や気持ちを分析する視点を持つことができる。 ②子ども一人ひとりの目線に立った支援をすることができる。 ③様々な障害がある子に対して、気持ちに寄り添った支援をすることができる。 ④障害がある子の発達を促すおもちゃや教材を製作することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業の内容・進め方・評価の方法)。障害・障がい・障碍の意味			
第2回目	インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の歴史・理念・仕組み			
第3回目	発達障害や軽度知的障害がある児童及び生徒の障害の特性及び生活・学習上の困難			
第4回目	発達障害や軽度知的障害がある幼児の保育・教育課程及び支援の方法			
第5回目	視覚・聴覚・知的等に障害がある幼児の障害の特性及び生活・学習上の困難			
第6回目	視覚・聴覚・知的等に障害がある幼児の保育・教育課程及び支援の方法			

第7回目	肢体不自由・病弱等がある幼児の障害の特性及び生活・学習上の困難	
第8回目	肢体不自由・病弱等がある幼児の保育・教育課程及び支援の方法	
第9回目	「通級による指導」及び「自立活動」の理解と支援の方法	
第10回目	「自立活動」につながる遊具や教材の作製と発表	
第11回目	個別の指導計画及び個別の支援計画の理解と作成	
第12回目	特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携	
第13回目	母国語や貧困や虐待等の問題と生活・学習上の困難	
第14回目	母国語や貧困や虐待等の問題に対する組織的な支援の方法	
第15回目	特別の支援を必要とする生徒の保護者の気持ちの理解と支援の方法	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
テキスト 「はじめての特別支援教育:教職を目指す大学生のために 改訂版」(有斐閣アルマ) 「社会福祉形成分析論」大熊信成編者(大学図書出版) その他、適宜資料を配布。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験(職種:児童指導員・生活指導員(障害児・者に係わる業務) 職歴:通算6年) 一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		